

訪問リハビリ利用者への取り組み

利用者情報 70 歳代 女性

住居：戸建て住宅（玄関の上がり框に段差あり）

病名：右大腿骨骨幹部骨折（2020.9 月発症）

既往歴：くも膜下出血（2014. 発症）

介護度：要介護 3 訪問リハ初回介入日：2020.1 月（介入時 FIM80 点）、週 3 回利用

【発症前】

くも膜下出血の影響から四肢の失調症状を呈していた。

屋内外ともに歩行器や手すりを使用して移動は自立。屋外歩行は 400m 程度可能。

【経過】

2020 年 9 月に自宅内で転倒され、右大腿骨骨幹部骨折を受傷。手術後約 3 か月のリハビリを経て在宅復帰。翌日から訪問看護の介入再開。

① 介入初期（2020 年 1 月頃）

痛みは残存。自立歩行は困難。痛みや ADL の低下から悲観的な発言が多く聞かれていた。

FIM80 点

歩行 1 点（屋内移動は車椅子使用）

写真：立位訓練まで実施中の場面

痛みが強く歩行訓練は実施できないことが多い

最大歩行距離 5m



② 介入中期（2020 年 1 月～ 6 月頃）

訪問リハビリ時は運動時痛・荷重時痛が強く、痛みのコントロールをいっつつ立位訓練を実施し、ADL の向上を目指した。トイレ動作はポータブルトイレを勧めていたが、動作が一人でできないことに対するストレスと痛みから心身ともに不安定な状態が続いた。

6 月頃から痛みが軽減。歩行器歩行の練習が可能。



FIM88 点

歩行 2 点（屋内歩行が可能になった）

写真：立位訓練、屋内歩行器歩行訓練場面

立位安定性向上し、屋内歩行の意欲向上



③現在（2021年10月）

歩行器を受傷前に使用していたものに変更。リハビリで屋外歩行練習も可能。痛みも大きく軽減し、表情も明るく前向きな発言も増加。
トイレ動作に関して、日中のトイレ歩行は軽介助で可能。夜間はポータブルトイレ使用。
屋外の歩行器歩行は、平地約150mを見守りで可能。



FIM93点

歩行4点（屋外歩行、軽介助にて150m）

写真：玄関上がり框の動作練習と屋外歩行練習

屋内移動は安定して可能。屋外歩行時は、受傷前から使用していた歩行器に変更し、安定性が向上。
屋外歩行に対しての意欲向上を認めた。



FIM点数の経過（一部抜粋）

	介入時	現在	もたらした影響
更衣下	2	6	家人の介護負担軽減と本人のストレス軽減
トイレ動作	2	4	日中は自立し、夜間はポータブルトイレ使用
トイレ移乗	2	4	できる動作が増加し、意欲の向上
歩行	1	4	受傷前に近い状態まで改善

【まとめ】

介入初期、強い痛みや焦り、不安から臥床傾向であった。リハビリは痛みの軽減と出来る動作の増加を目的に介入した。痛みの軽減に伴い、改善している時間を得られたことで、積極性が改善。本人からも前向きな発言を認めるようになった。

現在では、屋外歩行器歩行が軽介助にて可能になったことが
ストレスの軽減や希望に繋がり、ADLやQOLの向上に繋がっている。



インテリジェントヘルスケア株式会社

〒530-0047 大阪府大阪市北区西天満4丁目11-23 満電ビル3階
TEL: 06-6312-5000 (代表) FAX: 06-6312-5099
<https://nursing.nursing-hc.co.jp/>



イメージキャラクター
ワータンちゃん

ホームページはこちら!

